

対局交渉 (12/4)

地下鉄西神・山手線のワンマン運転に関する 勤務・労働条件の変更の提案を受ける



2025年12月4日の11時より、対局交渉を行い、当局より、「地下鉄乗務員の仕業表の変更について」並びに「地下鉄隔勤勤務者の勤務時間の変更について」の提案があり、組合は、持ち帰り協議するとしました。その後、12月11日の第20回執行委員会において、提案内容について協議・確認しました。

「地下鉄乗務員の仕業表の変更について」

【当局】 西神・山手線のワンマン運転化、及び令和7年10月22日の対局交渉で確認した西神・山手線、北神線の乗務付帯時分の変更に伴う地下鉄乗務員の仕業表の変更について提案させていただく。

北神線の仕業については、仕業数（緊急、半休仕業及び仕業予備を除く。以下、時間外勤務時間、平均乗務距離については同じ）・平均乗務距離の変更はないが、乗務付帯時分の変更に伴い、時間外勤務時間については、平日は、合計274分（平均5・0分）から合計144分（平均2・6分）とし、土休日は、合計162分（平均3・2分）から合計51分（平均1・0分）とする。

実施時期は、西神・山手線のワ
ンマン運転化にあわせて、令和8

【組合】 平均乗務距離について、これまでツーマンで行つてきた業務をワンマンで行うことになるが、運転士の業務負荷を考えると乗務距離を減らす検討が必要だと考えるがどうか。

【当局】 西神・山手線のワンマン運転化に向けては、省令及び通達で定められているワンマン運転を行つたために必要な設備に加えて、当初から導入しているATO運転、自動放送、非常発報装置のほか、可動式ホーム柵の設置、全駅のホームモニター設置、扉インタークロック装置および車上機器故障時の運転指令区放送など、運転士の負担軽減につながる設備投資を行つてきており、一定の負担軽減が出来ているため、現状の乗務距離のまま、ワンマン運転化は可能であると判断している。

なお、令和7年3月に実施したダイヤ改正は、ワンマン運転に伴う停車時間も考慮したものとなつ

【組合】 平均乗務距離について、これまでツーマンで行つてきた業務をワンマンで行うことになるが、運転士の業務負荷を考えると乗務距離を減らす検討が必要だと考えるがどうか。

【組合】 ワンマン運転化に向け、これまで妥結した内容についても移行後に問題が発生した場合は、早急に再交渉するよう申し入れる。

【当局】 交渉が必要となつた場合については誠意をもつて対応する。

【組合】 持ち帰り協議する。

「地下鉄隔勤勤務者の勤務時間の変更について」

【当局】 令和7年10月22日の封局交渉で確認した西神・山手線の乗務付帯時分の変更に伴う地下鉄隔勤勤務者の勤務時間の変更について、提案させていただく。

各職場の勤務時間の詳細は提案資料をご確認いただきたい。

実施時期は、西神・山手線のワンマン運転化にあわせて、令和8年1月5日（月）とする。

【組合】 持ち帰り協議する。

【組合】 ワンマン運転化に向
け、これまで妥結した内容について
ても移行後に問題が発生した場合は、
早急に再交渉するよう申し入
れる。

【当局】 交渉が必要となつた場
合については誠意をもつて対応す
る。

【組合】 持ち帰り協議する。

年末年始の各種業務について

12月27日（土）から1月5日（日）

の年末年始期間は本部組合会館の閉館及び自治労共済事業についてはお休みとなります！

期間中は各支部担当者までご連絡い
ただきますようお願いいたします

自治労兵庫県本部 都市公共交通評議会「くらしをささえる地域公共交通確立キャンペーン2025秋」



2025年11月21日の
18時より、地下鉄三宮駅周辺において、自治労兵庫県
本部都市交評主催の「くらしをささえる地域公共交通確立キヤンペーン2025秋」の街頭行動（ティッシュ配布）を行いました。

当日は、兵庫県本部、神戸交通、伊丹交通から18名の組合員が参加し、自治労議会のロゴが入った白いジャンパーを着用して、仕事帰りの利用者に公共交通の重要性を訴えました。

短時間の取り組みではありましたが、地域の暮らしへ支える公共交通の役割を市民に直接伝える貴重な機会となりました。今後も公共交通の維持・確立に向けた取り組みを続けていきます。

兵庫県交通運輸産業労働組合協議会 第33回定期大会

“持続可能な交通運輸産業”にむけて、 2026年度活動方針を満場一致で確認



資格審査発表をする坂倉副執行委員長

議事では、2025年度の活動経過報告・会計決算報告・会計監査報告が一括しての報告について承認されました。

主催者を代表して河合議長（運輸労連）より、戦後80年・震災30年など節目の年を踏まえつつ、猛暑や自然災害、燃料費・物価上昇の影響、そして交通運輸立が確認されました。

定期大会は中島副議長（交通労連）の司会進行で開会し、議長に本田弘和氏（JR連合）を選出しました。資格審査委員会からは、規約に基づく招集手続きの適正および出席状況（定数30名中27名出席、委任3名、オブザーバー2名）が報告され、大会の成績が確認されました。

まの会議室において、兵庫県交通運輸産業労働組合協議会 第33回定期大会を開催しました。人手不足、物価高、燃料費高騰、地域交通の維持、ライドシェア等の課題解決にむけて、2026年度の活動方針並びに会計予算を確認し、組織の総力で雇用と権利を守る取り組みを進めることを確認しました。

組合員資格の公示

組合員資格を取得及び喪失を確認された方々について、神戸交通労働組合規約施行規則第10条(加入)、並びに第11条(脱退)に基づき公示します。(敬称略)

加入

乗合自動車運転士	有馬 幹人
乗合自動車運転士	堀岡 裕貴
乗合自動車運転士	澤田 優樹
地下鉄保線技士	俊成 紘輝

脱退

運輸事務職員	児島 隆弘
自動車整備技士	狩俣 元気



加地議員とやる気満々の参加者

026年度活動方針（案）」が提案され、①物流・地域公共交通を支える制度と財源の確立、②人材確保・定着へ賃金など労働条件改善の推進、③カスタマー・ハラスメント対策の実効性強化、④ライドシェアの安易な拡大に歯止めをかけ、公共交通の持続可能性と安全を守ることなどが盛り込まれており、質疑の流れが確認されました。続いて、第2号議案「但馬地域協議会の廃止」（2026年3月の解散大会をもつて廃止）と、第3号議案「2026年度予算」がそれぞれ提案され、質疑なく承認されました。

これまで支部間の交流と親睦を目的に実施してきましたが、コロナ禍で一時中断していたため、6年ぶりの開催となりました。

今年は組合本部、石屋川支部、中央支部、高速乗務支部、高速技術支部から22名が参加しました。

競技は、各支部2名を基にしたパートナーとして、各支部の普段なかなか接点の少ない組合員同士が自然に交流できる組み合わせでプレーしました。

最後に、スローガンと大会宣言の採択を行った後、2026年度の役員・幹事を選出し、河合議長の発声による「団結がんばろう」と締めくくりました。

当時はスタート時の気温が4度と厳しい冷え込みとなりましたが、コースに出ると寒さを忘れるほど、優

勝を目指した熱いプレーと真剣勝負が繰り広げられました。いたのは中央支部の角田裕し、大神戸ゴルフ俱楽部にいて、組合主催の親睦ゴルフ大会を開催しました。

ラウンド終了後の表彰式では、順位賞に加え、参考した本部役員4名から提供された豪華役員賞も用意され、会場は大いに盛り上がりました。

また、コースでの待ち時間や昼食時には、各支部の現場状況や業務内容、制度に関する話題などが自然と交わされ、あちこちで活発な意見交換が行われるなど、本大会の目的である

「支部間交流」を実感できる一日となりました。

今後もこうした親睦行事を通じて、横のつながりを大切にしながら、組合活動のさらなる充実につなげたいと思います。